

# おわりに

長崎大学薬学部教授  
中嶋 幹郎

平成24年9月に採択された本事業は平成28年度までの5か年事業ですが、2年目になる平成25年度は、事業の本格実施に取り組む極めて重要な時期にあたります。そこで平成25年度は、本取組テーマに沿った内容の授業9科目を3大学が協議し合同開催する形で、長崎県内の大学における単位互換制度である「NICEキャンパス長崎」へ登録することができました。その中の7科目は「NICEキャンパス長崎」のために特別に開講したコーディネイト科目です。これらの科目の中へは様々な授業方法の科目を用意していますが、専任教員が担当する2つの実習科目（在宅チーム医療早期体験学習、地域包括ケア早期体験学習）と1つの演習科目（在宅がん治療特論）は学生が積極的に参加する能動型の授業で、履修した多くの学生達が自ら主体的に学ぶ姿が印象的でした。また平成26年1月には初めての評価委員会が開催され、「これまでの取組については、全ての項目について当初の予定通りあるいは予定以上に実施されており、今後の取組の更なる展開を大いに期待したい。」との総評を頂戴しました。平成26年度は当初計画に掲げた13科目を開講し「NICEキャンパス長崎」へ登録する予定ですが、事業評価を受けての改善と更なる充実が大きな課題になります。来年度は今年度を超える履修者を集めることができるよう、関係者一同努力していく所存です。今後とも本コンソーシアムの活動に対するみなさまのご支援とご指導をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

---

長崎県立大学看護栄養学部看護学科教授  
松本 幸子

本事業も2年目になり、新しい科目としてNICEキャンパス提供科目「地域包括ケア早期体験学習」が開講し、地域包括ケアについて全国的にみても先駆的な学習機会として、主に長崎市の地域包括支援センターにおいて実習を実施した結果、大きな学習成果が得られました。また、「在宅がん医療・緩和ケア合同実習」の次年度単位化に向け、3月に大規模トライアル実習が実施されます。平成26年度は、長崎薬学・看護学コンソーシアム事業から継続した開講科目とともに5年間の本事業の大学間単位互換科目の開発計画に沿った活動として、中間年度にあたり、平成25年度までの事業評価を受けての改善とさらなる充実が課題となります。連携する長崎県立大学としては看護学科、栄養健康学科、情報メディア学科の学生、教員が積極的に参加、協力することで大学間、専門職種間の連携・協働を実践から学んでいると感じています。次年度も関係機関の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

---

長崎国際大学薬学部教授  
榊原 隆三

「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」は、平成24年度大学間連携共同教育推進事業「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」を推進するため、長崎県内の大学・職能団体・行政から組織されました。本事業の推進のための大学の責務は、在宅医療と福祉、がん緩和医療と福祉に対する使命感や志を持つ学生を一人でも多く育て地域に送り出したいという点にあります。長崎国際大学の薬学部、健康管理学部、人間社会学部の3学部は、本コンソーシアムの一員として、それぞれの特徴を活かした事業参画および活動を行ってまいりました。平成25年度は、「在宅医療概論」、「在宅チーム医療早期体験学習」、「地域包括ケア早期体験学習」、「在宅がん治療特論」、「在宅がん医療・緩和ケア合同実習トライアル」を開講し、一定以上の受講者を集め、在宅医療・福祉およびその実践に極めて重要な意味を持つ多職種連携に関する啓発活動を実践しました。さらに、各種専門職および一般市民の方に在宅医療・福祉および緩和ケアについてご理解を深めていただく目的で、長崎県民フォーラム「考えよう！これからの在宅がん医療をー痛みを緩和と生活のうらおいー」と題して、佐世保市において主催いたしましたところ、多くの方に出席していただくことができました。今後とも、「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」の活動に対するご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。